

徳泉寺同朋会員である藤原清志さんが真宗大谷派の本山である東本願寺の宿泊研修にご参加されました。そのときの感想をお寄せくださいましたのでここに掲載させていただきます。本山のあの場所でしたか体験できない貴重なお話をいただきました。

本山上山研修に参加して

若林区荒井 藤原清志

昨年十二月、二泊三日の行程で仙台教区仙台組の四名と引率者二名(お坊さん)の六名で推進員後期教習奉仕団に参加しました。

本山同朋会館に宿泊し、朝夕の勤行、座談、帰敬式、清掃奉仕、宣誓と教習の日程に従い、普段の生活習慣とは全く違うスケジュールに追いまわられて終わったような気がしています。

京都駅から徒歩で東本願寺に到着し、最初に感じたのは建物の大きさでした。

両堂参拝、晨朝参拝時の行き来を目にした阿弥陀堂の絢爛豪華さ、御影堂の重厚さ、特に柱の太さ、梁の太さ長さ、木組みの見事さが目に焼き付き、建物に興味があったためか研修の全てに優先して圧倒されてしまいました。

清掃奉仕は幸いに山門二階床拭き掃除。現在・過去・未来の仏様三尊像を間近で拝観することができ、本当に来てよかったと思いました。

山門でも感じましたが何千トンあるかも知れない、あの大屋根を柱・梁、木組みで支えている技術。古来より引き継がれてきた日本の木造建築の素晴らしさに魅せられ、ただただ見惚れていました。

もしも仮に、木組みの一つ一つに意思と個性があったらどうなるだろうかーと。

四六時中雨風に晒されている外側のもの、下で上を支えているもの、日陰に置かれているもの等々が「雨風に当たるのはもう御免だ」「上の方に変えて」「明るいところに行きたい」等々と自己主張するものが出て不思議ではありません。

しかし、なにもモノ言わずただそこにある姿に、どなたかに言われた

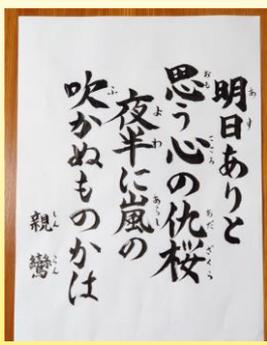
「**おかれた場所で咲きなさい**」

という言葉が脳裏に浮かび、この壮大な建物に教えられたような気がしました。



今月のことば

桜の季節が訪れました。この寺報が届く頃には徳泉寺の桜も見頃を迎えることでしょう。花が芽吹き咲ききっていく姿は私たちに感動を与えます。このうたは親鸞聖人が9歳で僧侶となるときに詠まれたもので、いつ散ってしまうかわからない命だからこそ、今を生きるということを考えさせられます。



INFORMATION

2020 畑へ行こう 「徳泉寺&日辺」子ども会

日時 4月19日(日)9:30~
場所 日辺公会堂前畑

今年も「畑へ行こう」開催します。

詳しくは別紙にてお配りしますのでぜひご参加ください。

春の法要 延期のご案内

毎年4月の中旬に行われている「春の法要」(共同墓地・ペット墓地合同法要)を延期し、以下の通り5月に開催を予定します。

日：5月10日(日)

時：13:00から

詳しくは次号でお知らせします

四月同朋会 は

中止します

新型コロナウイルスによる感染予防のため、四月の同朋会は中止とさせていただきます。どうぞ皆さま健康に留意しご自愛ください。

境内の花々



紅梅

『徳泉寺報』後記

不要の外出を避けるように。さて、どうしましょう。そうだ！掃除をしよう。と長年手を付けなかった物置の片づけに取り掛かりました。出てくる出てくる、家族とお寺の歴史に圧倒されました。